

平成29年度 事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会
(施設名) グループホームくんわ

目 次

1	はじめに	・・・ 1
2	利用者状況	・・・ 1～3
3	支援内容	・・・ 3
4	行事内容	・・・ 4～5
5	課題と次年度への提起	・・・ 6

1. はじめに

熊本地震から2年目を迎えるが、被害の復旧は中途にあり、地震直後にはわからなかったガス・水道関係にも修繕や新規交換を余儀なくされた。全国においてグループホームの火災や不慮の事故のニュースが相次ぎ、当法人においても災害時や緊急時の危機管理体制を今一度見直す必要となった。危機管理部長の指揮のもとに、バックアップ施設であるくんわの里との連携をはじめ、やまなみ会全体の危機管理について体制の強化がなされた。

グループホームの定員は60名で、緊急用受け入れ居室を1室備え継続して地域貢献に努めている。行政からの緊急的な要請にも応じており、前年度から引き続き触法障害者の社会復帰についても熊本県地域定着支援センターや保護観察所との連携を図りながら継続して支援を行っている。精神科病院からは長期入院患者の社会復帰の受け入れ先としてのグループホームの役割は年々大きくなっており、本年度の新規利用者の大半は精神障害をもっておられる利用者であった。今後も全利用者に占める精神疾患の利用者の割合が高くなる傾向にある(49%)。

2. 利用者状況

(1) 定員数 60名(現員 54名)(平成30年3月31日現在)

(内訳: 知的障害のみ28名 ・精神障害のみ5名 ・重複障害 21名)

GH名称	定員	現員	男性	女性	療育状況					平均年齢
					B1	B2	A1	A2	精神	
くんわホーム	9	9	9	0	5			2	2	48.1歳
治誠寮	5	4	4	0	2			2		37.8歳
第二治誠寮	7	7	7	0	5	1		1		54.1歳
かがやきハイツ	9	9	2	7	4			3	2	43.9歳
ひだまり	7	7	3	4	3	1		1	2	49.7歳
グリーンハウス	5	5	5	0		4		1		38.6歳
コーポ赤水	9	6	6	0	3	1		2		52.7歳
くろかわ	9	8	2	6	6	1			2	53.1歳
平均	60	54	37	17	28	8		12	8	48.0歳

全利用者に占める精神疾患の利用者の割合が高くなる傾向にある(49%)
高齢や病状の悪化に伴い、障害程度も重度化してきている。

(2) 利用者経済状況（現員 54名）（平成30年3月31日現在）

障害年金	障害年金＋生保	申請中	工賃のみ	計
45名	5名	2名	2名	54

20歳になり障害年金の新規受給になった方が2名、再判定にて障害の程度が変わったこと等により年金申請中の方が2名である。経済的な自立という意味においては、年金受給と工賃収入の向上で生活保護受給の廃止に至った方が2名、現在停止中の方が1名である。

(3) 新規利用者及び退去者の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規	1			1					1	1	1		5
退所		1						2				2	5

新規利用者は内訳としては精神科病院から3名、福祉課からの要請として受け入れた方が1名であった。緊急避難的に行政からの要請で入居に至ったものの集団生活に馴染めず、本人の希望で退所された方が1名いた。体験入居等の依頼も多くあり、希望に応じて随時、見学者への案内や説明等を行った。支援学校の卒業を控え今後の生活の場として体験してみたり、病院から半年以上にわたって複数回の体験を繰り返すことで入居に至った方、病院の退院日が迫り家族の要請で入居に至った方、体験の結果グループホームの入居に至らなかった方もおられた。入居に至らなかった理由としては、環境の変化や対人関係に本人が対応できなかったことがあげられる。また正規の入居ではないものの、家庭の事情で短期間滞在として受け入れた例が1件あった。

退所者4名においては、2名は一般就労へ移行し、1名は24時間体制の他県のグループホームへ転居、もう1名は高齢と疾患の悪化により服薬や点眼の自己管理が難しくなられたためご家族の希望もあり、当法人の施設へ入所された。

新規入居者2名については他の日中事業所を利用されているので、日中の状況や病状の把握、通院のサポート面でかなり厳しい状況また今年度よりグループホーム毎の男女の区別をなくしたことによって、生活面での均等が図れるように努めた。本人の障害の特性に配慮しながら、日中事業所・相談事業所・各市町村行政等、各関係機関と検討会議を重ね、本人のニーズに沿った支援を行った。

2. 支援内容

- ① 利用者の個性や志向を尊重し、話を傾聴する姿勢を心掛けた。世話人や家族との連絡を密にして必要に応じて関係機関や職員と検討会議を行い、利用者のニーズ把握と利用者寄り添う支援に努めた。
- ② 就労作業については日中事業所との連携を図り、休みがちな利用者に対しては日中事業への参加を促し、働いて収入を得ることで自身の楽しみや将来的にも安心な生活が送れることを助言・支援した。
- ③ 健康管理については、日頃より世話人や生活支援員がバイタルチェックを行い、サービス管理者に申し送り、日中事業所のスタッフへ連絡し、状況に応じてくんの里の看護師の助言を仰ぐなどして病院受診につなげた。予防的な管理については定期的受診時や地域検診を利用して健康診断等実施した。病状に合わせ医師の助言に基づき、世話人との連携により食事療法や運動療法を行い、万歩計を使用して歩け歩けグラフを作成し一緒に歩く事で適度な運動に取り込める様支援を行った。服薬に於いては誤薬の無い様、世話人の協力のもとで全員の服薬確認を行い支援に当たった。
- ④ 対人関係トラブルに対しては、まず双方の話を聴き、状況に応じて調整支援し、共同生活を行う中でルールを守ることやお互いを思いやり助け合うことの大切さを説明・助言し支援した。
- ⑤ 日常生活に於いては生活リズムの構築と安定に重点を置き、世話人と連携して起床・離床・洗濯・掃除・入浴・食事摂取等の習慣づけを繰り返し説明・助言した。個々に応じて出来ないことはスタッフが本人と一緒にいき、助言しながら支援した(配膳・食器洗い、ゴミ捨てや居室・トイレの清掃など)。
- ⑥ 買物・外出等の希望があった際は、必要に応じて送迎支援を行い、場合によってはスタッフが同行する形をとった。将来的に単独で行きたいと希望される方には時刻表を見て交通機関を利用するようにし、切符の予約や事故防止の対策を支援した。
- ⑦ 利用者に各行事やイベント等の案内や参加を呼びかけ、地域の方々と交流を深め、障害者への理解が得られるよう支援した。
- ⑧ 金銭管理については、まず本人の希望を聴き、世話人と共に相談・説明を行い、物事の優先順位や収入と支出とバランスが利用者本人に理解出来るよう丁寧に助言し、将来を見据えて貯蓄できるよう支援を行った。嗜好品に浪費しがちな利用者に対しては利用料の滞納で生活に困ることや病院受診代等必要な支払いについての説明を繰り返し助言し、支援を行った。
- ⑨ 定期的に運営会議、スタッフ会議を開き、利用者の状況やニーズの把握に努め、サービスの質の向上にあたった。必要に応じて各支援担当者、各事業所、市町村、医療機関等との検討会議を行い連携して支援を行った。
- ⑩ 防災管理については、地震をはじめとする災害時の経験をもとに非常時の体制について見直した。バックアップ施設であるくんの里との連携で非常食

や保存水を準備し災害時に備えた。合同で定期的な避難訓練（年2回6月・8月）を行い、職員・利用者の防災意識の向上につなげた。くんわの里敷地以外にあるグループホームについては、普段から地域住民の方々との交流を深め、利用者への理解に基づき非常時にも配慮ある協力を得ている。

各グループホームに導入した緊急通報装置やセコムセキュリティシステムの稼働にて夜間や世話人不在時でも迅速に職員が対応できるようになった。また全グループに設置したスプリンクラーも含め、これらについて定期的なメンテナンスを行い、非常時の安全対策に努めた。利用者に対しては、決められた場所での喫煙と火の元の最終確認を助言・指導し、スタッフ会議においても世話人に周知徹底を図った。

4. 行事内容

(1) レクリエーション

グループホームの行事としては、季節ごとのレクリエーション行事として夏のバーベキュー大会、そうめん流しツアー、秋のカラオケ大会などを催しグループホーム全体の親睦を図る機会を設けた。また、熊本県社会福祉協議会より木下大サーカスの優待枠を頂き、普段ホテル実習等で外出機会の少ない利用者の方々にも楽しみごとを設け、普段の頑張りをねぎらった。これまでホテル関係の実習に従事していた利用者については就労状況が見直され2月から事業所の稼働日に合わせる体制となったので、他の利用者と同じ日に休日が取れるようになった。5月の大型連休やお盆休み、正月休みで帰省されない利用者に対しては遠距離の外出支援を行い、充実した休日が過ごせるよう配慮した。通常の休日においても必要に応じて外出支援を行い、楽しみが損なわれないよう配慮した。くんわの里（秋まつり）や地域での行事等の参加を促し、利用者の楽しみが得られる様に努めた。

(2) 年間行事活動報告

	GH 利用者対象	地域活動・防災・検診等	スタッフ研修等
4 月	・ 4/15 くんわの里春まつり		・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
5 月	・ 5/3～5/7 外出支援 ・ 5/20 すぎのこまつり(小国支援学校) ・ 5/21 障害者スポーツ大会		・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議 ・ 支援会議
6 月	・ 6/10 国際ラグビー観戦 (うまかなよかなスタジアム)		・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議 ・ ケース検討会議
7 月	・ 7/7 バーベキュー大会	・ 花壇花苗植え	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
8 月	・ 8/5 小国支援学校同窓会 ・ 8/12 バイキング ・ 8/14 白水の滝見学バスハイク	・ 阿蘇市住民健診	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
9 月	・ 9/2 くんわの里まつり ・ 9/10 くまもとお菓子まつり	・ 健康診断 ・ 防犯訓練	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
10 月	・ 10/14 やまなみHPまつり ・ 10/15 ニキハーティHPまつり	・ 地域清掃・花苗植え ・ 消防点検 ・ インフルエンザ予防接種	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議 ・ ケース検討会議
11 月	・ 11/3. 5. 21 木下大サーカス ・ 11/10. 17 生活介護サーカス観覧 ・ 11/28 生活介護日帰り旅行 (嘉島・御船)	・ 阿蘇市住民健診	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
12 月	・ 12/16 もちつき大会 ・ 12/25 クリスマス会 ・ 12/28 御用納 ・ 12/31 大晦日	・ 避難訓練	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議 ・ ケース検討会議
1 月	・ 1/1 正月お節 ・ 1/2, 1/3, 1/9 初詣 ・ 1/6 どんどや		・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議
2 月	・ 2/2 節分・恵方巻き	・ 2/3 東黒川地区初寄 ・ 消防訓練	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議 ・ 担当者会議
3 月	・ 3/13～3/14 くんわの里就労 別府旅行	・ 高森歯科訪問診療 ・ 避難訓練 ・ 消防点検	・ 運営会議 ・ GHスタッフ会議

5. 課題と次年度への提起

(1) 課題

- ① 新規利用者については今後も精神疾患を伴った方の利用が増えることが予想される。障害の種類の多様化することで個々の障害の特性に配慮した対応がますます求められ、従事する職員のスキルアップやフォロー、受け入れ態勢の強化は昨年度に引き続き重要課題である。
- ② 現在入居中の利用者についても、高齢化や病状の悪化に伴い障害の程度が重度化することは今後も避けることはできない。
次年度への課題として、今後も住み慣れた環境で、本人が望む生活を継続していけるように、より見守りの可能なホームへの転居や入所施設へのサービスの転向も視野に入れ、安心安全な生活を支援していきたい。
- ③ グループホームでの食事提供については、昨年度より 365 日稼働体制を目標に検討を行っているところだが、土日の食事提供については今後も引き続き検討課題となっている。

(2) 次年度への提起

- ① 現在工賃のみの収入しかない方については家族の支援に頼るところが大きい
が、今後病状の変化や障害程度の見直しを行うことで公的年金の再申請等を積極的に行い、より経済的な安定が得られるよう引き続き支援していきたい。
- ② 現在生活保護受給中の方で若い利用者についても作業への意欲や参加を促し、
工賃アップを目指して、年金と自分の収入で生活していけるよう支援していきたい。
特に仕事を休みがちな利用者については、作業への促しや工賃を得ることで得られる楽しみを意欲につなげ、自分の生活は自分で支えるという実感を持って頂けるよう継続して支援していきたい。
- ③ グループホームでの食事提供については 365 日稼働体制を目標に、土日の食事提供についての早期実現を目指したい。
- ④ 昨年受け入れた新規利用者のうちで、やまなみ会以外の事業所を利用されている方については、日中活動の状況把握が難しく、生活上の助言や通院のサポートに際しかなり支障を来している。細やかに対応するため職員間の連携ができるよう、今後入居を希望される方については当法人の日中活動を利用することを条件に受け入れることを前提としていきたい。